

デジタル技術と古典印画技法を融合した 写真表現の可能性

芸術学部
写真・映像メディア学科
准教授

進藤 環



研究シーズの紹介

本研究は、写真の物質性を理論対象としたポストメディウムの視点から作品制作を行い、写真発明初期の技法であるサイアノタイプや鶏卵紙などを基材としたメディウムにデジタル技術を融合させた新たな写真表現の可能性について研究する。写真のデジタル化以降、写真の固有性と考えられてきた性質を問い直すことが必要となっている。ゆえに、写真技法のメディウ

ムを研究することは、現代における新しい写真表現の糸口を見出せると考える。前半期では古典印画技法に関する資料を集め、夏期に集中的に実験および制作を進めた。後半期は制作の成果を基に、『写真批評』（東京総合写真専門学校出版局）に、作品掲載と制作に関する執筆を行なった。書籍は2023年2月に発行され自身の成果を広く写真業界に公開した。

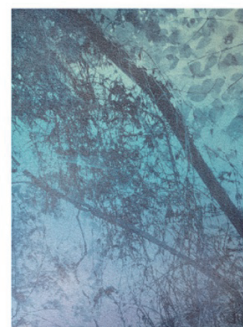


新しい写真表現の提案

- デジタルカメラによる広範囲な撮影アプローチを活かしたデジタルネガと、銀塩や鉄塩といった豊かな階調を持つ古典印画技法による、新しいイメージの生成方法を可能とします。



巻頭作品掲載4点・文章掲載
掲載頁/P8～P12（5ページ）
書名：『写真批評』
刊行年月日：2023年2月20日
判型：A5、ページ数：124頁
発行：東京総合写真専門学校出版局



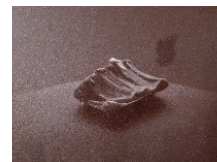
掲載作品：
アクリル塗料を塗った用紙に、サイアノタイプの薬品を塗布。デジタルネガで密着露光をする。

期待される活用シーン

- デジタルカメラで撮影した写真を豊かな階調幅でプリントしたい。



硝酸銀や鉄塩による化学反応で引き起こされる幅広い階調や解像度の高さなどの性質を得ることができる。



デジタルネガと鶏卵紙で作成したプリント

- 現代アートにおける写真表現の多様化の中で、写真の性質を踏まえた新しい表現の糸口を見出す。



本来の写真の性質を活かしつつデジタルテクノロジーを融合した新しいイメージを発信する。



美術館、ギャラリー等の作品発表を通して広く発信する。

その他の研究テーマ

- ・地域伝統産業プロモーションにおける写真活用と実践
- ・サイト・スペシフィック・アートとしての写真表現の構築